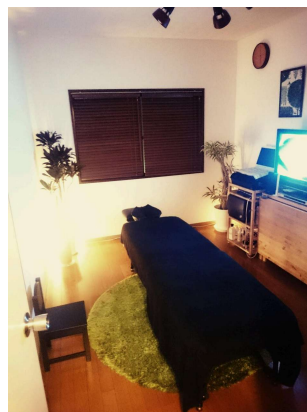


諸先輩方、ご無沙汰しております！現役の皆様、初めまして。 往年の名選手、小暮邦明大先輩よりご指名いただき、20年近く紫光会や稽古にも参加できていない自分で大丈夫かな？と思いつつ、バトンを引き継がせていただきます。

現在私は、目黒区自由が丘にてトレーナー・ヨガインストラクター兼整体師として「自由が丘 小林整体院 パーソナルトレーニングSolu(ソリュ)」を独立開業し、営んでおります。 東京の国立市出身、あきる野市の東海大学菅生高校を卒業し、立教大学経済学部・経営学科だった私が、なぜ縁もゆかりもなかった自由が丘で、これまた学生当時は全く想像もしていなかった整体師をしているかという.....。



## <自己紹介>

改めまして自己紹介を。 バトンをいただいた小暮先輩の二つ下の代、以前の寄稿「あいつ何してる？ Vol.13【平成20年卒花岡先輩】」内に記載のあった、二つ上の「鬼の栗和田」の代の副主将で、仏の小林 聡(そう)と申します。 東海大学菅生高校の出身で、当時は立教大学の自由選抜入試が始まって間もない頃でした。お世辞にも進学校とは言えなかった当時の母校から、強豪野球部の推薦以外での立教大学進学は初で、菅生高校の学校紹介パンフレットに載るほどでした。現在は菅生からの後輩たちが何人も立教に入学しているようで、面識はなくても嬉しく思っています。

## <学生時代>

立教大学の学生生活に希望を膨らませて入学した後、すぐに新入生勧誘の出店を探し出し、早速「剣道部に入部したいです！」と言いに行ったことは、私よりも一つ上の代の「切り返しの宗平」こと宗平大和先輩の方が覚えてくださっています。同期でマメな、他代とのパイプ役である片岡くん企画の飲み会でお会いすると、当時の様子を懐かしく話してくださいます。新歓で連れて行ってくださったドトールにて、学生には高級なアイスコーヒーをご馳走いただいたのに「一気に飲み干してしまったのがショックだった.....」というお話は、今でも笑い話の定番です(笑)。

その後、入学当初は「自分はお酒もタバコもやらない」と思っていたのが(大学時代を知っている方は信じられないかもしれませんが)、先輩方や同期と飲むのが楽しくなり、すっかりハマってしまいました。納会後の漫画喫茶にて、同期に「タバコなんて.....」と小言を言った際、「小林、吸ったこともないのに否定するのはよくないよ」と返された言葉が妙に胸に響き、それがきっかけ

で結婚をする31歳まで吸い続けることになりました。それもいい思い出ですが、まだ吸ったことがない学生さんには絶対に勧めません。やめるのが本当に大変でした(笑)。

その後、「あいつ何してる? Vol.26【昭和57年卒富樫森先輩】」の寄稿内にも登場する「まさしげ」にてアルバイトをさせていただいたのですが、実は私の在学中がちょうど「おっちゃん」「おばちゃん」の引退された時期でした。「まさしげがなくなってしまうのか……」と思っていたところ、お客様だった方が「道楽に」と店を継がれたのです。この方がまた道楽というだけあって大胆で、「江戸っ子」という表現がぴったりのお方でした。店を開けると飲み始め、酔っ払うと塩加減で味が濃くなるという(笑)。そして酔いが進むと「やっといて！」と店を学生に任せて夜のお店に繰り出してしまう奔放ぶりでしたが、それでも学生には優しく自由にさせてくださっていたので、やはり学生にとっては「良いアルバイト先」だったと思います。途中から私は、その後就職することになる印刷製本会社にアルバイトが変わってしまったのですが、その仕事に「大将が火事で亡くなった」と連絡があった時は衝撃でした。大将が亡くなったことへのショックはもちろんですが、まさしげが存続すると一安心した矢先の出来事に大きなショックを受けました。

そんな「ずっと繋がりのあるバイト先」が無くなってしまい残念に思っていると、少し時間が経った頃に、当時よく通った「セントポールの隣」のマスターからお話をいただきました。大学のすぐ隣にあるレストランですが、しょっちゅう「クープデンマーク」というパフェを食べに行っていた縁で、「小林さん、学生アルバイトとの縁が途切れてしまったので、前のまさしげのように剣道部の子を紹介してくれないか」と。そこから後輩たちがアルバイトでお世話になるようになり、「ああ、また繋がるバイト先ができるのか！」と、そんなきっかけになれたことがとても嬉しく思いました。後輩からは「賄いが美味しい上にご飯が継ぎ放題なんです！」と嬉しい悲鳴をよく聞きました。マスターに「縁を繋いでくれた小林さんの写真を店に飾らせて」と言っていただいたのに、つい照れくさくてお断りし続けてしまったのが今は少し悔やまれます。

この寄稿を書いていたらあまりに懐かしくなり、思い切って久しぶりにマスターに電話をかけてみると、「ああ！小林さん！」と覚えていてくださり、大変嬉しかったです。何でも「コロナをきっかけに学生とのご縁がまた切れてしまったんです……」と寂しそうに話してくださいました。「ぜひまた繋いでください」ともおっしゃっていただいたので、もし現役学生の方が読んでいたらぜひ！！

話を少し戻しまして、二年生の時に、今回バトンをくださった小暮先輩のお付きをさせていただきました。お付きといっても、小暮先輩は寄稿からも分かるように面白く温厚で、自分のことは自分でされる方だったので、もっぱら楽しく遊んでいただきました。唯一お付きらしいことができたのは、ご本人は覚えていないかもしれませんが、小暮先輩が全日本学生優勝大会の個人戦に出られた際のこと。一番手に馴染んでいる竹刀が検量を落ちてしまい、「なんとか通して」との要望に、当時メンテナンスが得意だった私が調整をすることで無事にパスできたことくらいでした。試合前日に「初太刀に注目！」と部員全員にメールを送り、宣言通り強豪・大阪体育大学の主将に対して初太刀片手面を決められたのは、私が竹刀検量を通したからだと思っています(笑)。当時の華々しい活躍に寄稿で全く触れられていなかったのを、勝手に紹介させていただきました。現在でも、小暮先輩の舞台がある際は足を運ばせていただき、デビュー当初よりファンとして毎度楽しく拝見しております。皆様もぜひ一度足を運んでみてください。

小暮先輩から寄稿のお話をいただいた際には「了解です！」と安請け合いしてしまったものの、書き始めるとあれやこれやと楽しい思い出やお酒での失敗談が溢れ出し、書ききれません(笑)。今でも同期の片岡くんや吉川くんとは定期的に会っており、マメな片岡くんが同期や近い代の先輩方との合同飲み会を企画してくれると、当時の話に花を咲かせております。学生時代の話は本当にいつまでも酒のつまみになりますね。またお会いした際にたくさん話しましょう！とにかく充実してました！



4年生最後の夏合宿



卒業アルバム集合写真撮影にて その1



よくよく考えると、小学生の頃に「ツボの本」を買うほど体に興味があり、祖父の肩揉みも好きでした。学生時代も同期をマッサージすることがあり、印刷会社時代は国立から高田馬場まで片道30kmほど毎日自転車通勤をするなど、体力だけは自信がありました。「身ひとつで仕事ができ、独立できて、人のためになる仕事を」.....そんな思いが一発で解決してしまう提案だったのです。

そこからは早かったです。言われたその場で整体の学校を探し、体験授業を申し込みました。国家資格と悩みましたが、「3年以上・500万近くの学費」は当時の自分には到底無理な話。最短三ヶ月程で提携先で働ける整体学校に決め、トータル200万円弱の12年ローンを組んで受講しました。当初、整体自体を「胡散臭いもの」と信じていなかったのですが、学び始めてみるとこれが面白い！解剖学や生理学、カイロプラクティックなどの正しい知識があれば必ず体は変えられる。学生時代からの腰痛やぎっくり腰が嘘のように、今はどこも痛みはなく、むしろ学生時代より柔軟性も体力もあるかもしれません。

給料が半年遅れになった2011年7月に吉田製本工房を退職し、その後は学校に通い詰め、11月に「カラダファクトリー」に就職しました。半年程で目黒区の都立大学店のオープニングスタッフとして副店長を任された際、お客様の紹介で美容師の女性と出会いました。最初は「雰囲気似ている人がいるから」という紹介を「自分に似ている人はいやです！」とお断りしていたのですが、会ってみると実際に気が合い、その方が現在の妻となっております。27歳まで美容室に行ったことがなく、高校時代から自分で髪を切っていた人間が、まさかモッズヘアで長年店長をやっていたような美容師さんと結婚するなんて、これも想像すらしていませんでした。友人に妻を紹介すると、学生時代の私からは全く想像できない金髪の妻によく驚かれました(笑)。



結婚式に来てくれた同期(+原田くん)との集合写真

妻との出会いから、いよいよ「独立開業」を具体的に考えることになりました。全店常に上位の指名数をいただいていたのですが、当時はなかなかの薄給で、交際3ヶ月で挨拶に伺った際、妻の両親から「今給料が低くて、これから独立するという会って間もない男に娘はやらん」とはっきりお断りされてしまったのです。すると今度は妻から「早く結婚するためにも、もう独立しな

い！」と尻を叩かれ、それが一番の理由で予定を早めて独立することになりました(笑)。当時、妻の職場が二子玉川、私が都立大学だったこともあり、お互いの職場から近い場所ということで、縁のなかった「自由が丘」での開業が決まりました。今では義両親にも可愛がってもらい、経済的にも余裕ができたので、妻のあの時の判断に感謝しています。2014年6月に独立してから11年以上が過ぎました。「本当に技術がよければ口コミで広がる」という思いで、広告も出さずGoogleマップの掲載だけでここまでやってこれたのは密かな自慢です。学生時代は「剣道は一生続ける」と思っていたのに、こんなに剣道から離れてしまうなんて夢にも思いませんでしたが、紆余曲折を経て、現在は妻と今年小学2年生になる7歳の息子、そして愛犬と元気に暮らしております！



長女(犬)と息子

日々に忙殺され、なかなか稽古には行けていませんが、紫光会のHPやFacebookを通じて現役の活躍に胸を躍らせ、お世話になった大先輩の訃報には「ご存命のうちにもう一度竹刀を交えたかった……」と悔やみつつ拝見しております。運営してくださっている諸先輩方、本当にありがとうございます。仕事と家庭を持って、休みの日に稽古へ行くことの大変さが身に染みてわかります。現役のみんなもいずれきっとわかります(笑)。不義理をしているせめてもの気持ちで、毎年会費だけは払うようにしております！払っていない方は払いましょう！(笑)。



同期の片岡くん、吉川くん、二個下の代のお付きの原田くん、10年近くぶりの同じくお付きだった三個下の代八木くんと

### <今だから言える、学生最後の思い出>

この文章は、実は最後まで書くつもりは無かった部分です。学生当時への言い訳になってしまう気がしますし、今でも時々悔やまれることだから。一度、原稿を担当の磯野先輩に提出したのち、「時間はまだまだありますので、楽しいエピソードが思いつきましたら、追記修正もご検討ください」とメールをいただいたことに背中を押されました。むしろ真逆の苦いエピソードなのですが、それが今の自分自身を形成する一番のきっかけになっているので、やはり書くことにいたしました。

本当に剣道が好きで好きで、前述通り「一生剣道を続ける」と思っていた自分には、学生最後の試合に出られなかったのは本当に悔しかった……。入学当初は「剣道よりも勉学を優先する」と思っていた自分は、入学間もない頃にあった立大の短期留学の募集に申し込んだものの、倍率も高く見事に落選。その後は結局、大好きな剣道の方が楽しくて、できるだけ部活に出られるようにゼミにも入らず、誰よりも稽古に参加しました。

ただ、「剣道だけ」には全力で向き合っておらず、剣道家のバイブルである漫画『六三四の剣』の影響から「一期一会」が座右の銘だった自分は、「その一瞬を大切に、全部に全力で！」という思いが少し悪い方向に。バイトを徹夜でやっては授業に出てうとうとして単位を落とすわ、試合前日も遅くまでアルバイトをして、やはり結果は振るわず……。なんてこともありました。仲間に迷惑をかけるのは本当に嫌だったけれど、とても忙しいアルバイト先なのに部活と学業を優先させていただいていた手前、「自分が無理をすれば何とかなる！」という思いがありました。また「家計が厳しい今、自分で稼がないと、飲み会費や合宿費の負担は親には掛けられない」という思いから、「どちらも全力で！」という選択になりました。「泣き言」は絶対に周りに言いたくなかったのに、地元で中学から仲の良い友人に一度だけ「全部を全力でやりたいのに、全部が中途半端な自分が本当に嫌だ」と漏らしてしまい、ひどく心配されたのを覚えています。

強豪・東海大菅生出身から自由選抜で入ったこともあり、先輩方から期待していただき一年から補欠としてメンバーに入れていただきました。常に試合メンバーだったにも関わらず、稽古だとそれなりに自信があるものの、試合となると強敵相手には善戦するのに、格下だと思われる相手にはコロッと負けたりする「むらっけ」があり、選手を選ぶ側からすると本当に使いづらい選手だったと自覚しています。

最後の試合、相手は尚美学園大学でした。直近の練習試合でチームでも勝っているし、自分も二本勝ちをしている相手。「最後に向けて段々と練習試合も安定してきているし、絶対勝つぞ！」と思っていた時に、監督からのメンバー発表で自分の名前を呼ばれることはなく、「次の試合は出すから準備しておけ」と。当然勝つと皆が思っていた結果、一回戦敗退。誰も悪くない。誰も責める気はない。悔しかったのは皆一緒。本当に心からそう思う。ただ、本当に悔しかった……。「それだけ」に全力にはなれていなかったけれど、それまでずっと大好きで「その時の全力」で向き合っていた剣道が、全く想像していなかった終わり方をしてしまった。自分が勝って負けた仲間に「どんまい」ということも出来ず、自分が負けて「ごめん」ということもできず、最後の引退試合に出られなかった自分に、負けてしまった後輩が「ごめんなさい……」と泣いて謝る姿を見て、必死に作り笑顔で「大丈夫！」ということしか出来ませんでした。

数年後にOBとして行った剣道部の飲み会の席で、ふと石川監督から「これを言うのは小林にも、その時出た後輩にも失礼だと思ってずっと言えなかったけれど、最後の試合に出してやれずに申し訳なかった」と言われました。それまで「迷いなく選手に選べるほどの選手では無かった自分が悪い」と納得していましたが、本当は「せめて最後の試合は出たかった」と誰にも言えなかった気持ちを、ずっと理解して抱えてくださっていたのだと分かり、スッと気持ちが楽になった瞬間でした。「選手を選ぶ側」という重い責任を担いつつ、いつも指導してくださったこと、本当にありがとございました。監督！大丈夫ですよ！恨んでいませんよ！（とにかく明るい安村風に。笑）

思い返しても本当に悔しかった。けれど、その時の悔しい体験から「日々何事も全力でやるけれど、時には優先順位をつける必要がある」ということを学んだおかげで今、剣道ではなくしっかりと家族を最優先に、仕事とも上手く向き合っている自分がいます。ただ、時々昔の悪い癖が出て、息子が小学校に入学したばかりでまだ右も左もわからないのに、PTA会長から「校外活動部の部長がいない」と困っているのを聞き、安請け合いて一杯一杯に。すると妻から「一杯一杯になるくらいなら受けてくるな」とお叱りを受けましたが(笑)。

## <最後に>

子育てが落ち着いたら、また皆様と剣を交えたい。今まで学んできた体の知識は、「これを学生時代に知っていたかった……」と思うものばかりです。いつかは何らかの形で剣道部にも還元できたらなあ。最近、実家から持ち帰った短い素振り刀を振るようになってからは、より剣道への思いも蘇ってきて、日々そんなことを思っております。

さあ、大分長く書いてしまいました。拙い文章で、しかも他の先輩方がしっかりとした文章を書かれている中、こんな軽いトーンで良いのでしょうか……。当時の私を知る方たちが「相変わらず小林だな」と笑って許してくださると信じて、寄稿させていただきます。諸先輩方と学生諸君のご健康とご活躍を祈念しております！

次はどなたにバトンを渡そうか……お楽しみに。

